

テーマ：景気動向指数（2015年1月）の予測

発表日：2015年2月27日（金）

～C I一致指数は2ヶ月連続で高い伸び。基調判断は若干の上方修正か～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

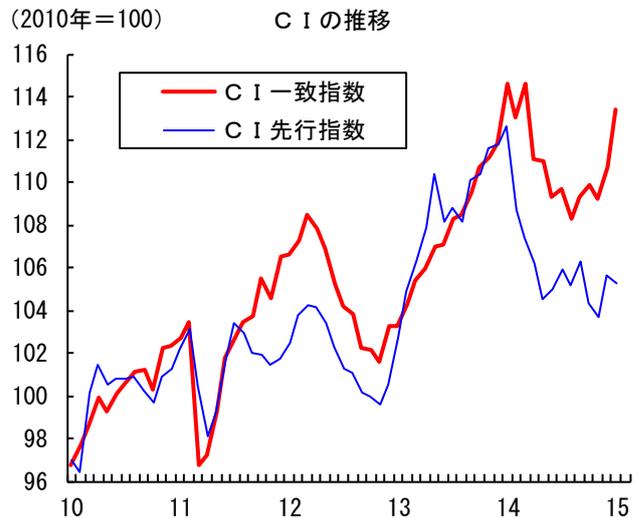
○ C I一致指数は2ヶ月連続で高い伸びに

内閣府から3月6日に公表される2015年1月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+2.6ポイントと予想する。14年12月に前月差+1.5ポイントと比較的高い伸びになっていたが、1月は一段と上昇幅が加速する見込みだ。C I一致指数は昨年8月を底として持ち直しが続いているが、ここにきて上昇ペースが速まっているように見える。

内訳では、鉱工業生産指数や耐久消費財出荷指数、中小企業出荷指数、鉱工業生産財出荷指数など、生産・出荷関連指標のプラス寄与が大きかった。

一方、1月のC I先行指数は前月差▲0.1ポイントを予想する。日経商品指数のマイナス寄与が大きく、全体を押し下げるだろう。ただ、原油価格の下落は日本経済にとってはプラス材料であり、日経商品指数の下落によってC I先行指数がマイナスにな

ったとしても、問題視する必要はない。また、他の系列では、最終需要財在庫率指数や鉱工業生産財在庫率指数などのプラス寄与が見込まれ、在庫調整の進捗が示されるだろう。表面上の数字はマイナスかもしれないが、内容は良好である。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2015年1月は第一生命経済研究所による予測値

○ 基調判断は「改善」維持の見込み。但し書きは削除され、若干の基調判断上方修正か

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、14年11月までの「下方への局面変化」から、12月には「改善」へと上方修正されていた。15年1月も、この「改善」判断が維持されるだろう。なお、内閣府による「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であり、景気が既に底打ちし、足元では景気回復局面に転じていることが強く示唆されている。

なお、14年12月の基調判断では、「改善」の後に「ただし、基調判断に用いている3か月後方移動平均のこのところの変化幅は、大きいものではない」という但し書きがついていた。15年1月のC I一致指数の上昇幅が大きいことを踏まえると、但し書きは今回削除され、単なる「改善」という判断になる可能性が高い。一応、基調判断としては若干の上方修正という扱いになるだろう。